

原子力災害で求められる放射線技師の役割と人材育成

～甲状腺簡易測定などの最新動向～

座長集約

福島県立医科大学附属病院 角田和也

青森県立中央病院 三浦巧磨

東海村 JOC 臨界事故後に原子力災害対策指針策定、福島第一原子力発電所事故の課題を踏まえ原子力災害対策指針が改正され、現在の原子力防災体制が構築されている。2025年2月に日本診療放射線技師会が原子力災害医療協力機関に指定され、原子力発電所立地道府県だけではなく診療放射線技師が担う役割が重要となっている。本シンポジウムでは、現行の原子力災害医療実施体制から甲状腺簡易測定や人材育成の取り組みを4名の先生にご講演いただいた。

弘前大学の辻口貴清さんから、原子力災害の基本から構築されている医療体制の解説、原子力災害発生から被ばく傷病者の医療機関受け入れや住民避難のフローを解説していただいた。青森県医療薬務課の澤頭大幹さんは診療放射線技師として県で原子力災害対策に携わっている立場にあり、青森県で策定している原子力災害医療体制や訓練及び人材育成の取り組みを紹介していただいた。また、汚染傷病者や避難者への対応想定及びリスクコミュニケーションに関する問いかけを参加型でご講演いただいたこともあり、原子力災害対策への関心の一助になったと考える。福島県立医科大学の大葉隆さんに

は福島第一原子力発電所事故時の甲状腺簡易測定結果も含め甲状腺被ばくスクリーニングの必要性、実際の甲状腺簡易測定の流れと課題についてご講演いただいた。なお、原子力災害医療研修体系では原子力災害医療基礎研修を受講し、次のステップで甲状腺簡易測定研修が受講できるという流れになっており、原子力発電所立地道府県以外でも日本診療放射線技師会員はいずれの研修も受講可能であるため、そのような方々にも原子力災害医療協力機関としての協力者になっていただく礎になっていただけたらと考える。仙台医療センターの越智隆浩さんから原子力災害拠点病院としての建屋や設備をご紹介していただき、原子力災害医療派遣チームの概要も含め、診療放射線技師の役割から人材育成及び評価方法をご説明いただいた。各機関で人材育成や技能維持には課題があるかと考えるので、育成方法や工夫を参考にいただければ幸いである。

今回のシンポジウムが原子力災害拠点病院及び原子力災害医療協力機関における人材育成の一助となること、日本診療放射線技師会員に原子力災害医療への関心を持っていただき協力していただく契機となることを望む。